

令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 各学年とも、当該学年の漢字の読み書きは、ドリルや漢字ノート等を使った繰り返しの練習を指導したことで、概ね身に付けることができた。
- 6年生では、文章量を意識して意見をまとめる指導の成果で、字数に合わせて記述する力が付いてきた。
- 話し合いをもとに自分の意見をまとめたり、考えを深めたり、文章の読み取りの感想の共有をしたりする力が伸びてきた。

(2) 課題

- 今年の大田区学習効果測定の結果を見ると、観点別では、「主体的に学習に取り組む態度」、領域別では「書くこと」、解答形式では「記述」で、目標値を下回った。語彙・言葉の特徴や使い方に関する事項の知識・理解の拡充と共に2段落構成で文章を書く、自分の考えとそれを支える理由を明確にして書くなど、書く力を育て、主体的に学習に取り組む力を伸ばしていくことが課題である。
- 校内研究では、知識や経験や考えを伝え合い、それによって思考を深めていく為に、語彙を増やすことと「話すこと・聞くこと」の力を更に伸ばしていくことが必要であるという共通理解ができた。もう一つの課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	目標値をやや上回っている。	/	/
第5学年	目標値を僅かに下回っている。	目標値を僅かに上回っている。(第4学年時)	/
第6学年	目標値をやや上回っている。	目標値を上回っている。(第5学年時)	目標値を僅かに上回っている。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 概ねできており、目標値、区の平均を共に上回っている。 前年度に学習した漢字の読み・書きで正答率が目標値を下回る問題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値は上回っているが、区の平均正答率をやや下回っている。 物語や説明文の内容を読み取る問題はすべて目標値を上回り、目立つ課題は見られない。 書く領域の問題で目標値を下回る問題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値をやや下回っている。 文章を書く問題の無解答率が高く、記述式の問題に取り組めていない児童が一定数いる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 5年生は目標値をやや下回り、6年生は目標値を少し上回っている。 5年生は、前年度の漢字の読み書きは概ねできていたが、語彙や 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生は目標値をやや下回り、6年生は目標値を少し上回っている。 物語の内容を読み取る問題では、5年・6年ともに目標値を上回っ 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生は目標値を少し下回り、6年生は目標値を少し上回っている。 文章を書く問題の無解答は、6年生でも見られるが、5年生の

<p>修飾語、指示語といった言葉の学習で、目標値を下回る問題が多く見られる。</p> <p>・6年生は、漢字の由来に関する問題で、目標値を下回っている。</p>	<p>ている。</p> <p>・5年生では、中心となる語や文を見つけ、要約する問題や2段落構成で文章を書く問題で目標値を大きく下回っている。</p>	<p>無回答率が高く、記述式の問題に取り組めていない児童の割合が高い。</p>
--	--	---

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>平仮名・片仮名・漢字の読み書きを繰り返し練習し、日常的に使うことで、しっかり定着させる。主語と述語が噛み合わない文のねじれ等をその時々で指導し、正しい文のイメージを作る。読み聞かせや朝学習で、語彙を増やす。</p>	<p>感想や理由を入れた自分の考え、つなぎ言葉を入れた簡単な説明など、児童の実態に応じた手本文や話型を用意し、文章を書いたり話したりすることに慣れさせる。</p>	<p>学習課題やポイントを明示し、進んで取り組めるようにする。また、ICTを活用し、視覚的に理解できるように工夫する。2人組での感想や考えの交流を、日常的に取り入れる。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>語彙を増やす為、国語辞典と共に漢字辞典も日常的に活用させる。読み聞かせや朝学習プリントも実施する。また、指示語や様子を表す言葉を入れた短作文を取り入れ、言葉の知識を増やす。</p>	<p>自分の考えが明確になるよう、事例を挙げて話したり書いたりさせる。長さを指定して書く機会を増やす。例文も用意し、どの子も書ける工夫をする。説明的な文章は、中心となる語や文章に、傍線を引いてつながりを意識して読ませる。</p>	<p>自分達の学習課題を考えさせるなど導入を工夫し、進んで取り組めるようにする。また、ICTを活用し、相手意識を持ち、感想や考えを交流する機会を増やす。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>連体修飾語や連用修飾語、修飾語や被修飾語、指示語などの言葉の学習で得た知識を、読解や作文などで活用し、身に付けるようにする。</p>	<p>話し合いでは、意見の共通点や違いに着目して意見を述べる指導をする。書くことでは、文章の構成を意識し2～3段落の文章を書く練習をする。説明的な文章では、中心となる語や文章に傍線を引き、それを使い読み取りや要約をさせる。</p>	<p>ICTを活用し、相手意識をもって感想や考えや作品を交流する機会を増やし、より理解が深まることを実感させる。また、分かりやすく伝える為に、言葉の知識や段落構成等の技能が有効なことに気付かせる。</p>

令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・調べ学習には意欲的に取り組むことができた。
- ・教科書や副読本、資料集等を活用したことで、資料を読み取る力が定着した。

(2) 課題

- ・地形の特徴や国の位置関係、地図記号などの定着が不十分である。
- ・学習効果測定において、記述問題の正答率が全体的に低い傾向にあった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	目標値に対して、平均正答率を下回っている。	/	/
第5学年	目標値に対して、平均正答率を下回っている。	目標値に対して、平均正答率を下回っている。	/
第6学年	目標値に対して、平均正答率を下回っている。	目標値に対して、平均正答率を上回っている。	目標値に対して、平均正答率を上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。 ・地図記号（市役所）を選ぶ問題は、目標値を下回った。 ・安全なくらし（火事）の単元・くらしの移り変わりの単元では、目標値を下回った。 ・工場の仕事、市の様子の移り変わり、店の仕事は目標値と同程度だった。	目標値を下回っている。 ・単元によって正答率の差が大きい、全体的に50%から60%の正答率である。	目標値を上回っている。 ・前年度と比較すると大きく正答率が上がっている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。 ・工業生産と貿易の単元 ・農業、水産業の単元	目標値を下回っている。 ・5年生、6年生ともに、記述問題での正答率が低い。	目標値を下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地図記号の定着が十分ではないため、地図帳を活用しながら、繰り返し確認が必要である。 ・安全なくらし、くらしの移	・資料を読み取り、まとめる活動を充実させる。	・社会的事象を自分事として捉えられるように、身近な事象や具体物を用いるなど、導入を工夫する。 ・見通しをもった学習計画を

りかわりでは、実際に話を聞いたり、写真や映像資料を活用したりしながら知識の定着を図る。		立てるようにする。
---	--	-----------

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料集に書かれている文章や図、グラフなどを繰り返し正確に読ませていく。 国の位置や海流などは、教室掲示などを行いながら定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の数値を正確に読み取るだけでなく、複数の資料を比較するなどの見方を身に付けさせる。 NHK for School 等、映像資料を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象を自分事として捉えられるように、身近な事象や具体物を用いるなど、導入を工夫する。 見通しをもった学習計画を立てるようにする。

令和4年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・前年度は4・5・6年生で目標値を下回っていた思考・判断・表現の項目で、すべての学年で目標値を上回った。意図的に文章問題への取り組みを増やし、題意を読み取るために下線を引くなどの取り組みを徹底し、文章題を読み取ったうえで、適切に問題の意図を読み取ることができる児童が増えてきたと考える。また、年間を通じて体験的な学習活動を行ったことでも、思考力が高まってきたと考える。

(2) 課題

- ・自らが出した解答を用いて、次の問題の解答をするような、思考の分岐がある問題を苦手とする児童が多い。
- ・答えを出すことができてもどうやって解答に至るのかを説明することができない児童が多い。知識・理解の定着が弱いことに起因すると考えている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	目標値を、校内平均正答率は上回っている。	/	/
第5学年	目標値を、校内平均正答率は上回っている。	目標値を、校内平均正答率は上回っている。	/
第6学年	目標値を、校内平均正答率は下回っている。	目標値を、校内平均正答率は上回っている。	目標値を、校内平均正答率は下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な数量や図形についての知識、技能とともに身に付けている児童が多く、目標値を大きく上回っている児童が多い。今後は学力の上下の幅を縮めていくように努める必要がある。	文章題の題意を適切に読み取ることができている。データを活用したり、図形の特徴を正しい言葉で表現したりすることができている。今後は学力の上下の幅を縮めていくように努める必要がある。	もっている知識・技能を適切に理解し、必要な場面で正しく使うことができる児童が多い。今後は学力の上下の幅を縮めていくように努める必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形以外は目標値を下回っており、基礎的な計算力やデータの見方・活かし方が身に付いていない。公式や計算の方法を、根本的に覚えられていないと考えられる。	題意をとらえて、正しく立式をしたり、2つの数の関係を説明したりすることができる児童が増え目標値を上回ったが、区や全国の平均値には届いていない。	もっている知識・技能を活用しようとする児童が増えているが、公式や計算のルールを正確に覚えられておらず、問題に対して適切にアプローチできない児童が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数の概念や、基本的な計算の型長さの比べ方を確実に身に付けられ	文章問題を絵や図に表して表現できるようにする。また、文章題の	児童が関心をもって課題に取り組めるように、体験し、自分が考え

<p>るよう、計算カードや具体物などを使い、体験的な学習を通じて基礎的な知識を定着させる。</p>	<p>キーワードを探し出し、下線を引けるようにすることで、適切に問題を読み取り、自分の考えを言語化する力を高める。</p>	<p>たことを伝え合う活動を通して、考えを広げたり深めたりすることの楽しさを知る。</p>
---	---	---

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>算数に必要な公式や作図方法、専門用語、基礎的な四則計算の方法を定着させるように、基礎的な知識を活用して解く問題に取り組ませる。</p>	<p>図式化、数字については特に数直線を活用し、説明する活動、式と関連付けて説明する活動を十分に取り入れる。児童が考えを伝え合う活動を設け、自らの考えを広げ、深められるようにする。</p>	<p>日常生活に関連付けた課題、実際の数量を確かめる体験活動を基に、自分の考えを伝え合う活動をする。その中で自分の考えを伝えたいという意欲を高めていく。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>算数に必要な公式や作図方法、専門用語、基礎的な四則計算の方法を、登場した機会に反復を繰り返し、確実に定着させる。覚えた知識、技能を活用して解く問題に多く触れさせる。</p>	<p>文章問題に多く取り組ませ、キーワードに下線を引くなどして、題意を正確に把握できるようにする。そして、図や数直線に多く取り組ませ、適切に表せられるようにする。</p>	<p>自分の生活との関連他教科や既習事項との関連を踏まえながら、児童が見通しをもって、自分の考えを伝え、主体的に学習に取り組めるようにする。根拠をもって、児童が考えを伝え合う活動を設け、自らの考えを広げ、深められるようにする。</p>

令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験器具の名称や正しい使い方を意識的に指導したり、観察の視点を明確にする指導を繰り返したりしたことにより、実験の技能の定着が見られた。
- ・まとめの時間を確保したことで、自分の言葉でまとめようとする思考力が高まった。

(2) 課題

- ・図やグラフ等を活用した表現への理解が不十分である。
- ・自分事として見通しをもって意欲的に学習に取り組む力が弱い。
- ・学習したことを発展させて調べようとする意欲が弱い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	目標値より上回っている。	/	/
第5学年	目標値より正答率が下回っている。	目標値より下回っている。	/
第6学年	目標値より正答率が下回っている。	目標値より上回っている。	目標値より下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に理解度が高い。エネルギー分野の磁石の性質に課題がある。	実験の結果から分かったことなど、理由を明確にして説明することが苦手な傾向がある。	観察や実験に対して、約6割の児童が意欲的に取り組んでいる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に理解度が低い。エネルギー分野の電流のはたらきや粒子分野の物のあたたまり方やとけ方にやや課題がある。	既習事項から予想を立てたり実験方法を考えたりすることがやや苦手な傾向がある。	観察や実験に対して、約6割の児童が意欲的に取り組んでいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年につながりがある、電気を通す物やつなぎ方を中心に磁石の性質や昆虫のからだのつくりなど、具体物を示して知識を定着させていく。	順序立てて説明するために、話型を示す。一人一人がなぜだろうと思える問題との出会いに力を入れていく。	身近な教材の利用と簡単な工夫のできる実験活動を学習活動に取り入れる。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
グラフから変化を読み取る力や過去の実験結果から予測する力など、見通しをもって学ぶ活動を取り入れていく。	実験を行う前に既習事項の確認を行う。学校で実施可能な実験方法を考える時間を確保する。その際、条件制御などを意識させる。	自然の不思議さを自ら対象に働きかけながら結果を迫及する学習活動を取り入れる。

令和4年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・土手探検で虫探しに行き、捕まえてきた虫を飼うことや、自然観察で見つけた自然物を使って遊ぶこと等を通して、身近な自然に触れることができた。
- ・朝顔やミニトマトを育てる活動を通して、生長の変化を捉えて観察することができた。
- ・おもちゃ作りでどのように作ったら動くか、どのように遊んだら楽しく遊べるか等、グループで話し合いながら
予想を立てて学習を進めることができた。
- ・町探検を通して地域の人と触れ合ったり、自分たちの地域にはどのようなお店や公園、公共施設があるか理解を深めたりすることができた。

(2) 課題

- ・自分の考えや感想を伝えることはできるが、友達の意見を聞いた上で交流し合うことができない。
- ・身近な自然の季節の変化や季節による違い、特徴を見付けることが苦手である。
- ・身近にある生活を豊かにする公共物や公共施設の利用方法を知らない児童がいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然を観察したり、季節の行事に関わったりする活動を通して、違いや特徴を見付けることができるようにする。また、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心させられるようにする。 (例：朝顔や野菜作り、季節ごとに校庭や土手、町探検へ行き変化を感じる等) ・身近にある公共施設へ行き、皆で使う物や場所、施設を大切に正しく利用するためのルールやマナーについて学ぶことができるようにする。 (例：図書館見学・駅・電車を利用する等) ・生命及び自然に対する興味や愛情を認め、さらに生命や自然に対する思考に至るような活動や言葉かけを工夫していく。 ・自分自身を見つめる機会を通して、自分の生活や成長には身近な人々の支えがあることに気付くようにする。 (例：自分探検インタビュー等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことや考えたことを児童が多様な方法（言葉、絵、動作等）で表現できるようにし、丁寧に見とるようにする。 ・身近な人（友達、家族、学校や地域の人、公共施設で働く人）と関わることができる機会を多く設定し、自分とはどのような関係があるかを意識させるようにする。また、夢や希望を膨らませ、生活を豊かにしていく。 ・自分が考えたことや思ったことを伝え合う時間を十分にとることで、活動を振り返ったり、自分と友達の意見を比べたりすることができるようにする。また、交流し合うことを通して様々なことに気付き、新たな思いや考え、活動が生まれるようにしていく。 ・友達の意見を聞いて感想を持ち、それを伝える学習活動を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物に目を向け、地域との関わりをもてる活動を設定する。それにより、社会の一員としての安全で適切な行動をしようとする態度を育てる。 (例：身近な公園や公共施設へ行く、町探検等) ・日常的に動植物に触れる機会をもてるよう工夫する。それらを観察したり、体験したりすることにより、動植物に親しみを持ち、大切にすることを育む。 ・対象と関わる中で知りたいことや疑問に思っていることを話し合い、児童が思いや考えをもって自分から活動できるようにすることで、満足感や達成感を味わうことができるようにする。

令和4年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・歌唱や鑑賞活動において、音楽的要素に気付いて曲を分析し、指導の下、表現を工夫しようとする姿勢が見られた。
- ・感染対策に気を付けながら、ペアワークやグループごとの演奏などを取り入れ、児童が協働する場面を設けられた。

(2) 課題

- ・音楽的要素と関連付けた曲の理解はできるが、自ら考え、表現に生かすまでには至らない。主体的に表現を工夫するための基礎的な知識・技能の定着を図っていくとともに、仮説を立てて実験的に表現する体験をするなど、実感をもたせながら表現の方法を身に付けさせたい。
- ・ペアワークやグループワークでは議論が進まないグループもあった。まずは自分の考えを整理する時間を設け、各学年の発達段階や実態に応じて、段階的に協働して音楽活動を楽しんだり思考を深めたりする活動を設定する。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・タンバリンやカスタネットなどの身近な楽器や歌唱の基本的な演奏方法を理解させる。曲想と音楽の構造などの関わりに気付かせる。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り、音楽表現をする上でどのように表したいか思いをもって演奏したり聴いたりさせる。	・身体を動かしながら身の回りの音楽に楽しく関わり、友達と音楽活動をする楽しさを感じられるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な楽器や様々な歌曲に触れる機会を増やし、基礎的な技能を身に付けさせる。また、表現の工夫に繋げるための知識を音楽的要素と関連させながら身に付けさせる。	・曲想に対する表現方法を音楽的要素と関連させながら自分なりに意図をもって考え、仮説を立てて表現したり、鑑賞したりする。	・音楽活動を楽しみながら、ペアワーク等を通して進んで音楽活動に関われるようにする。様々な音楽に触れる機会を増やし、感じたよさを伝えあう場を設ける。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を確実に身に付けさせる。	・曲想に対する表現方法を音楽的要素と関連させながら自分なりに意図をもって考え、仮説を立てて表現したり、鑑賞したりする。	・音楽活動を楽しみながら、グループワーク等を通して主体的・協働的に音楽に関わり、感じたことや気付いたことを、根拠をもって伝えることができるようにする。

令和4年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・図画工作におけるタブレット学習が定着してきた。
- ・教師に聞く前に、自分で考えてみようとする場面が増えてきた。
- ・鑑賞の場面では、積極的に発言・表現しようとする児童が増えた。

(2) 課題

- ・複合的な題材では、既習事項を生かし切れていない場面が見受けられる。経験不足を補うための用具・道具の習練等、製作経験をもっと増やす必要がある。
- ・完成までの見通しを持つことが難しい児童が目立つ。まず何から始めたらいいか、次に何をしたらいいか、どこまでやったら完成なのか、イメージできる力を育てる必要がある。
- ・タブレットの活用技能に個人差があり、その部分の支援が必要になってきている。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
手や体全体の感覚や技能を働かせてつくる活動を多く設定し、身近な材料や扱いやすい用具で色や形を試しながら、経験的に技法を身につけさせていく。	感じたことや想像したことから、表したいことやつくりたいものを見つけて表せるよう、造形遊びの中で楽しみながら試していく活動を多く取り入れる。	進んで表したり見たりして造形活動を楽しめるよう、身近にある多種多様な材料を基に、体を使って密を避けながら取り組める素材体験活動を増やしていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前学年までの材料や用具についての経験と既習に重ね、新たな用具を正しく安全に使うための基礎技術と、表現によつての使い分ける技能を、繰り返し習得させていくことに時間をかけていく。	身近な材料や場所などを基に発想してつくることのできるよう、教室以外の場も活用し学習環境に変化を持たせる。密を避けつつ、みんなで考えを共有できるような場面設定を行っていく。	進んで表現したり鑑賞したり、つくり出す喜びをあげあえるような題材選びと、目的や面白さ、学習ルールなどを友だちとの距離を確保しつつ共有できる活動を工夫し組み込んでいく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の表現に適した方法を選択したり、組み合わせたりして創造的な技能を総合的にはたらかせて表現できるよう、様々な材料や用具を揃え、試せる環境を充実させていく。	材料や場所の特徴を基に構成したり、自分が表したいことや伝えたいことを見つけて構想したりできるよう、作品により思い入れを持ちやすい題材を設定し、目的や用途に目を向けて考えさせていく。	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、自分の表したいことを見つけて表せるよう、児童の個々のテーマを持たせ、イメージと見通し（計画）を確認しながら活動できるようにする。

令和4年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技能習得の場面では、ICT教材を効果的に活用しながら指導を行うことができた。
- ・感染症予防対策をとりながら、可能な限り調理実習を実施することができた。
- ・衣食住などに関する実践的・体験的な活動への関心は高く、技術面で個人差はあるものの裁縫・調理・洗濯などの活動に意欲的に取り組む児童が多かった。

(2) 課題

- ・家庭における自らの役割が明確でなかったり、生活実感が乏しかったりするためか、学習が自分ごとになっていない。学習の前段階として自分の家庭の現状を調べ、問題の起点とすることで、児童の主體的な取り組みを促す。また学習後には、レポート課題などとして家庭での実践を計画的に取り入れて評価する。
- ・学習を通して自分の考えの幅を広げ、課題解決に向けた選択肢を増やしていく必要がある。さらに、そこから課題に合わせた優先度に気付かせ、数ある考えの中からよりよい生活の在り方を決定できるようにしていく必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に合わせた技能習得の場を設定し、ICT教材を活用しながら指導を行う。 ・用語・用具の使い方も知識として習得させる。 ・児童自らが課題を設定し、解決のため学習を進める問題解決型学習を行うことで、学んだ知識をより深く理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが豊かな発想をできるような授業環境を作る。 ・校内の清掃活動中の様子や給食の配膳時の盛りつけ方など児童の工夫を確実に見取り、賞賛の言葉かけをしたり、学級全体に紹介して広めたりする。 ・児童一人一人の考えを分類・整理して、課題解決の優先度に気付けるようにしたり、設定した条件の中で考えを選択したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭で実践している調理や掃除の工夫をインタビューする活動を取り入れ、課題に関心をもって取り組めるようにする。 ・家庭での生活を振り返り、家族の一員としての意識を高め、実際に自分の知識や技能を生活に生かせる学習の場を設定する。 ・長期休業中を含め、家庭での実践を計画的に取り入れる。 ・児童が関心をもち、楽しく取り組んでいけるよう題材や資料などを工夫する。

令和4年度体育科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・めあてを明確化することで、児童が主体的に活動に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・普段の授業におけるICTの活用が不十分であった。
- ・体力テストで課題がある項目について、各単元の学習で重点的に扱う。(握力、上体起こし、立ち幅跳び)

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
その動きができるようにそれぞれの運動に楽しく取り組む。タブレットや電子黒板で動画の手本を参考にし、運動のポイントを確認し理解を深める。	簡単な遊び方を工夫できるようにする。	めあてを明確にし、運動を楽しく行い、体を動かす楽しさを味わえるよう取り組む。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットや電子黒板で動画の手本を参考にし、運動のポイントを確認し理解を深める。	自己の能力に適した課題をもち、めあてを達成できるようにするための活動を工夫できるようにする。タブレットで自分の動きを撮影して運動のポイントを確認する。	めあてを明確にし、それを基に、教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動を楽しくできるように取り組む。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
電子黒板で動画を視聴して、心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解する。(保健) タブレットや電子黒板で動画の手本を参考にし、運動のポイントを確認し理解を深める。	自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫できるようにする。タブレットでお互いの動きを撮影して、運動のポイントを児童同士教え合う。(体育)	・めあてを明確にし、それを基に、教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、体力を高められるよう取り組む。

令和4年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

【高学年】

- ・ALT 講師(外国語指導助手)との、あいさつや簡単な英文を使ってのスマールトークができた。
- ・日本語と外国語との違いに気付き、読むこと、話すこと、書くことに慣れ親しめた。
- ・JTE (日本人英語専科指導員)がいることで質問しやすい環境をつくることができた。児童がわからないことをすぐに聞くことができた。
- ・振り返りや評価テストを定期的に行い、学習の定着を図ることができた。

(2) 課題

【高学年】

- ・自分の考えや気持ちなどを外国語で伝えることが消極的な傾向にある。
- ・実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な知識をさらに身に付ける必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率 (経年比較)

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年			
第5学年			
第6学年	目標値に対して、校内平均正答率がやや上回っていた。		

(2) 分析 (観点別)

① 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値は達成しているが、他の観点と比べて、英単語を読む力に課題が見られる。ALT 講師の言葉をリピートする機会が多いので、英単語を読む機会が少ないのが原因だと考えられる。	・英会話を聞いて場面を想像したり、理解したりする力に課題が見られる。「会話全体の理解」の問題は、目標値からやや下回っている。英単語の理解力が弱いことが原因だと考えられる。	・目標値は達成しているが、自分の考えや気持ちなどを外国語で伝えることが消極的な傾向にある。自分の力に自信をもてずに、積極的に話そうとする姿があまり見られないことが原因だと考えられる。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年(外国語活動)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT を活用し他国の映像を見せたり音声聞かせたりして、外国の言葉や文化に興味をもたせる。	・児童の実態に合った歌やチャンツなど身体表現やリズム遊びを行う。	・リズムを使って外国語に慣れ親しませる。

(2) 中学年(外国語活動)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">ICTを活用し他国の文化に触れる時間を設け体験的に理解を深められるようにする。	<ul style="list-style-type: none">外国語で聞いたり話したりする機会を増やし、自分の考えや気持ちを伝える言い方を何度も練習し、伝え合う素地を養う。	<ul style="list-style-type: none">他教科と関連付けて言語やその背景にある文化に対する理解を深める。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">外国語を読んだり書いたりする時間を増やし、基礎的な技能を身に付けるようにする。ALT 講師や JTE 講師に頼らずに自分の力で単語や英文を理解できるように、評価テストを効果的に取り入れる。	<ul style="list-style-type: none">日常に関する対話を聞き、自分の考えや気持ちを伝える言い方を何度も練習し、伝え合う機会を増やす。ICT 機器を活用し、外国の映像や音声に親しませる時間を取り入れる。	<ul style="list-style-type: none">講師や友達の手本を参考に、友達や先生と気軽に対話できる学習を取り入れる。外国語を使って自分の気持ちを伝えようとしている児童を褒め、正解ばかりを求めないように指導する。